

防災情報はLINEで確認

市公式LINEでは、防災メニューからさまざまな情報を確認できます。



市公式LINE



市登録の防災士も貢献

防災士とは、日本防災士機構が実施する防災士資格取得試験に合格し救急救命講習を修了した者で、本市では44行政区で69人の防災士が活躍しています。(2025年4月現在)



令和7年度も募集中

【主な役割】各地域で行う防災訓練の支援、防災啓発活動、避難者の支援など



地域のつながりで、命をつなぐ



避難するタイミングが分かりません。どの段階で避難したらいいですか？

避難に時間を要する方は、警戒レベル3(赤)で避難を開始してください。警戒レベル4(紫)では全員避難をお願いします。

家の周りが浸水して避難できない時はどうしたらいいですか？

避難することがかえって危険な時は、上階などの高い場所への避難や、崖・山の斜面から離れた部屋に移るなどして、少しでも安全なところに移動してください。

防災対策室長に聞く 防災のポイント

室長 小松 輝久 さん

「地域」で取り組む防災

東日本大震災や熊本地震、能登半島地震などの巨大災害では、「自分たちの命は自分たちで

6月から10月は、集中豪雨(線状降水帯)や台風が発生しやすい季節です。本市でも、平成24年7月九州北部豪雨や令和2年7月豪雨、令和3年8月の大雨などで大きな被害を受けました。

災害は、何気ない日常を一瞬にして奪います。いつ自分の身に起きてもおかしくありません。

大きな災害が発生した時に大切なことは、「自助」「共助」「公助」です。自助は、自分で自分の命や家族を守ること。共助は、地域で協力して助け合い、自分たちの地域を守ること。公助は、市や消防などがまちを守ることで、災害から多くの命を守るためには、三つの力が欠かせません。そして、過去の災害を教訓に、日頃から備えておくことが大切です。

「その時」は突然に

守る」という自主防災が不可欠であることを改めて認識させられました。

本市でも、各地域が自主的に防災活動を行う「自主防災組織」が構成されています。これらの組織は、「地域をよく知っている」から「こそ細やかな対応ができる」「現場の近くにいる」から「こそ迅速な対応ができる」という強みを持っています。これら地域密着の取り組みを通して、地域住民が安心できる環境を守っていかねばなりません。

災害発生時は、すぐに救助隊が向かうことができない場合もあります。そんな時頼りにできるのが、自分、家族、そして地域住民です。

自主防災組織の活動

- ・ 平常時
 - ・ 防災知識の普及
 - ・ 避難訓練
 - ・ 緊急時ネットワーク点検
- ・ 災害時
 - ・ 市からの情報伝達
 - ・ 安否確認や避難誘導
 - ・ 避難所運営

今からできる備えはありますか？

自分が住む地域の災害リスクや緊急時の連絡網を確認し、いざという時の避難場所や避難経路も確認しておいてください。

地域の防災力を上げるためにはどうすればいいですか？

普段からの対話が重要です。対話することがつながりを強くし、訓練などに取り組むことが地域を良くし、災害の危機にも強くなります。「地域のつながりは、命のつながり」。災害による被害や悲しみを少しでもなくすため、地域での取り組みを次の世代につなげていくことが大事だと思います。



「つながりが大事です。」



昭和57年出初式
分列行進



平成2年豪雨
木流し工法で崩壊の拡大を防ぐ



平成2年豪雨
土砂の撤去作業



平成24年九州北部豪雨
浸水家屋からボートで住民を救助



令和2年7月豪雨
崖崩れを防ぐシート張り



令和6年出初式
ポンプ車操法展示

近年は災害が多様化する中、時代に合わせた対応力が求められており、日頃から研修や訓練を重ねることとで消防力の低下を招かないよう努力するとともに、団員の皆さんが安心して活動できる環境づくりが必要です。

近年は災害が多様化する中、市民の皆さまの生命、身体、財産をどう守るのか、また組織を運営するにあたり、時代に合わせた対応力が求められる中で「継承と進化」です。過去の積み重ねの上に今があることを意識し、その技量と知識を受け継ぐことで消防力を維持しつつ、新たな経験を積み重ね、進化を続けることが重要です。

求められる「継承と進化」

団長 久保田 学さん



消防団は要らないのではという声もありますが、私は核家族化や近隣同士の関係が希薄化している今の時代だからこそ必要な存在だと思っています。人は一人の力だけで生きていきません。家族や地域に育てられていくものだと思います。消防団の活動は大変なことも多いですが、これまでお世話になった地域への恩返しの一つが消防団活動だと思っています。時代の変化に合わせて、消防団が持続可能な組織として存続していきけるよう、これからも努力してまいります。

第一線で守り続ける 消防団

消防団とは、普段はそれぞれの仕事に就く方々が、災害時には消防本部・消防署とともに活動する消防機関です。地域をよく知り、いち早く駆けつけて対応できるのが強みで、特に火災の拡大に大きく影響する「初期消火」を始めとした、地域防災のためのさまざまな活動にあたっています。

主な活動

- ・ 消火、警戒などの火災鎮圧に関すること
- ・ 一人暮らしの高齢者などへの戸別訪問による防火指導や夜回り、年末警戒などの火災予防に関すること
- ・ 行方不明者の捜索や救助に関すること
- ・ 住民の避難誘導や危険箇所の警戒に関すること



消防団とは

平成24年7月九州北部豪雨や令和2年7月豪雨、令和3年8月の大雨などでは、住民の避難誘導や孤立住民の救助活動、浸水被害や人的被害の軽減に貢献。また、被害にあった家屋などの復旧活動も行いました。

一緒に活動しませんか？

市消防本部では、安全安心のまちづくりのため、一緒に活動する団員を募集しています。学生団員や特定の活動を担う機能別団員、女性団員も募集していますので、詳しくは市ホームページまたは消防団係へ問い合わせください。



団員募集



消防団の皆さんに感謝

私の自宅が火事に見舞われた際は、現役消防団員だけでなく、退団した方も駆けつけて消火活動に当たってくださいました。道が狭いため消防自動車が入らず大変でしたが、的確な判断で消火活動に当たっていただいたおかげで延焼を防ぐことができました。

また平成24年の水害の際は、市内全域の団員の皆さんが駆けつけてくださいました。日頃の仕事もある中、地域の安心安全のために活動いただいていることを本当にありがたく感謝しています。



荒川 美紀子さん
(瀬高町)